

全体では、変わらない 14(31.8%)、
そう思う 13(29.5%)、そうは思わない
9(20.5%)、わからない 8(18.2%)であ
った。地域特性別では、都市郊外では、
変わらない 5(45.5%)、地方市は、そう
は思わない 5(50.0%)、山村、離島では、
変わらない 9(39.1%)、そう思う
9(39.1%)が多かった。

(12) 住民の声が行政に届きにくくな った

全体では、変わらない 15(34.9%)、
わからない 11(25.6%)、そう思う
9(20.9%)、そうは思わない 8(18.6%)
であった。地域特性別では、都市郊外
では、変わらない 7(63.6%)、地方市は、
そう思う 4(40.0%)、山村、離島では、
変わらない 8(36.4%)が多かった。

(13) 行政職員へ相談をしにくくなった

全体では、変わらない 22(50.0%)、
わからない 9(20.5%)、そうは思わない
7(15.9%)、そう思う 6(13.6%)であ
った。地域特性別では、都市郊外では、
変わらない 6(54.5%)、地方市は、そ
うは思わない 3(30.0%)、わからない
3(30.0%)、山村、離島では、変わらな
い 14(60.8%)が多かった。

(14) 上記以外で合併による生活の変化

全体で見ると、良くなったという自
由回答には、窓口の開設時間が長くな
ってよかった、利用できる保育園の数が増
えた、図書館の利用がしやすくなったな
どがあった。一方、合併はなかったほう
が良かったという意見としては、合併に

よるいい変化が何もない、窓口の人員不
足と思われるが、対応が悪い、窓口が遠
くなった、交通の便が悪い、どこで何の
手続きができるのかわかりづらい、以前
に比べて提出するもの(手続き)が増え
た、サービスの案内がきめ細やかに来な
くなったので不安など、良くなったとい
う意見よりも、合併はなかったほうがよ
かったという意見の方が多く見られた。

D. 考察

近年、世界に例をみない急速な少子高齢
化社会を迎えたわが国では、安心して子育
てができ、健やかに成長できることを目指
して母子保健政策が行われている。¹⁾これ
は、各時代における母子保健の水準を示す
指標などとともに変遷し、1994年には、住
民により身近な保健サービスの提供がしや
すくなるように母子保健法の一部も改正さ
れ、市町村を実施主体としたサービスの提
供体制がとられてきた。また少子化の進行
や女性の社会進出など子どもを取り巻く環
境の変化への対応のために同年、エンゼル
プラン「子育て支援のための基本的方向に
ついて」を策定し、さらに1999年には新エ
ンゼルプラン「重点的に推進すべき少子化
対策の具体的実施計画」が策定され、その
中には、乳幼児健康支援一時預かり事業と
いった健康な乳幼児を子育てする親への支
援サービスも具体的に盛り込まれた。

このように、母子を取り巻く社会的背景
に沿った政策の変遷がある一方で、市町村
合併による行政区単位の拡大により、乳幼
児を子育て中の母親の生活がどのように変
化したのか、保健・福祉サービスがどのよ
うな形で提供されると乳幼児を育児しやす

なるのか、居住する地域での日常生活の行動範囲や交流の実態と保健福祉サービスの利用等に関する調査を行った。

0～3歳という乳幼児期にある子どもがいる母親は必然的に行動範囲が制限されがちという仮設のもとに調査を行ったが、日常生活の範囲では、買い物は週1～4回の範囲で、自家用車で5～10分の距離にあるスーパーに出かけているケースが最も多かった。外食も月1回程度の頻度で自家用車を利用し、30分以内のところを利用することが多いという結果が得られた。また、その他、日常的にも週1回から週2、3回は公園や遊び場に出かけ、実家にも同程度出かけていることがわかった。さらに母子保健サービスに関する利用状況では、児童館や児童センター、子育て支援センターには月に1～4回程度の頻度で、5～10分の所要時間の場所へ、バギー、徒歩、自転車などでかけている回答が多かった。また、育児サークルの利用では、利用頻度は週1回～月1回と幅があるものの、自家用車を使用し10分程度の場所への利用が最も多かった。これらのことから、乳幼児を子育て中の親は、買い物などの生活の圏域は、身近な地域で充足し、必要とする母子に関するサービスの利用においては、行きたいと思うものには、距離が遠くても、自家用車などを利用し利用することが明らかになった。

一方で、このような生活行動範囲やサービスの利用を行っている子育て中の母親にとって、「身近な地域」と感じる範囲は隣近所やマンションや団地の一角と、自宅を拠点にした狭い範囲であった。居住する地域へは比較的高い愛着感を持つが、地縁組織への参加は、祭りなどのイベントへの参加、

バザーや廃品回収といった、コミュニティへの積極参加というよりは、サービスの受けてとしての関わりという実態が見えた。合併のあった市町村に居住する母親に、合併によるサービスの利用状況などの変化をたずねたが、行政区が広域かつサービスの選択肢としては増加しているが、その利用実態に関しては、地域特性に関わらず、ほとんど変化がないという結果が得られた。このことは、市町村合併からの年数があまり経っていないことも影響要因として考えられるが、自ら情報を得て、必要と思うサービスがあれば、距離と時間がかかってもすでに利用している母親にとって、合併によって利用するサービスに変化の必要性は乏しかったためではないかと考えられる。

公的な保健福祉サービスの利用については、88.9%の親が利用していると回答しており、利用しているサービスの内容は、「乳幼児健診」「予防接種」「家庭訪問」「電話育児相談」の順であり、基本的母子保健サービスの利用はされており、児童館や子育て支援センターなど公的・民的な育児や子育て支援に関するサービスと合わせて、必要なものを利用しながら子育てをしている実態が浮きぼりになった。今後のサービスへの要望の声としては、公的なサービスがより身近な場所で、土日を含め利用できるようになることを望んでいた。

E. 結論

今回の調査対象は、健康な乳幼児のいる母親で、子供を連れて外出する母親であった。行政が行う保健福祉サービスはサービスを積極的に利用しそとしない個別的な配慮を必要とする親や多様なニーズをもつ障

害をもった子どもや多胎児を持つ保護者であることが示唆された。今後はこのような対象にも調査を行い、どのような課題を持った子育て中の保護者でも、必要とするサービスを身近な地域で受けられるあり方について、さらに検討していきたい。

引用・参考文献

- 1) 宮里和子：母性看護学、医学芸術社、p.77、2005
- 2) 日笠端：コミュニティの空間計画、共立出版株式会社、1997
- 3) 平野かよ子：市町村合併に伴う住民参加型の日常生活圏域の設定と保健福祉サービスの提供体制のあり方に関する研究、2006.3
- 4) 岡田知弘：市町村合併の幻想、自治体研究者、2004

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

- 1) 論文発表
なし
- 2) 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

なし

表 I - 1 協力市町村

| 地域特性 | 自治体 ()協力者 数 | 人口 単位:人 | 合併の有無 |
|--------------|--------------------|---------|-------|
| 都市部 | A (10) | 334,470 | × |
| | B (14) | 405,060 | × |
| 都市郊外 ・地方市 | C (10) | 75,165 | × |
| | D (11) | 104,247 | ○ |
| | E (10) | 78,684 | × |
| | F (10) | 288,940 | ○ |
| | G (10) | 161,158 | × |
| | H (10) | 31,685 | ○ |
| 山村・離島 | I (3) | 19,670 | ○ |
| | J (10) | 55,916 | ○ |
| | K (10) | 26,329 | ○ |

表 I—2 回答者の属性

| 地域特性 | 都市部 | | 都市郊外・地方市 | | | | | | 山村・離島 | | |
|------------------|------|------|----------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K |
| 自治体名 ()は協力者数 | (10) | (14) | (10) | (11) | (10) | (10) | (10) | (10) | (3) | (10) | (10) |
| 平均年齢 | 34.7 | 32.5 | 32.3 | 33.5 | 33.8 | 29.4 | 31.5 | 27.9 | 30.7 | 32.4 | 33.3 |
| 子どもの数 | 1.2 | 1.9 | 1.3 | 1.45 | 2.0 | 1.0 | 1.3 | 1.8 | 2.3 | 2.9 | 1.8 |

表 I—3 回答者の属性(就業状況)

| 地域特性 | 都市部 | | 都市郊外・地方市 | | | | | | 山村・離島 | | |
|------------------|------|------|----------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K |
| 自治体名 ()は協力者数 | (10) | (14) | (10) | (11) | (10) | (10) | (10) | (10) | (3) | (10) | (10) |
| 仕事有 | 3 | 1 | 0 | 2 | 1 | 3 | 3 | 4 | 0 | 9 | 3 |
| 仕事無 | 7 | 13 | 10 | 9 | 9 | 7 | 7 | 6 | 3 | 1 | 7 |

表 I—4 回答者の属性(家族構成)

| 地域特性 | 都市部 | | 都市郊外・地方市 | | | | | | 山村・離島 | | |
|------------------|------|------|----------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K |
| 自治体名 ()は協力者数 | (10) | (14) | (10) | (11) | (10) | (10) | (10) | (10) | (3) | (10) | (10) |
| 核家族 | 10 | 13 | 10 | 10 | 8 | 7 | 7 | 4 | 3 | 8 | 3 |
| 二世帯家族 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3 | 4 | 0 | 2 | 2 |
| 二世帯以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 5 |

表 I — 5 回答者の属性(居住年数)

| 地区特性 | 1年未満 | 1年以上 5年未満 | 5年以上 10年未満 | 10年以上 20年未満 | 20年以上 |
|--------------|------|--------------|---------------|----------------|-------|
| 都市部 | 0 | 4 | 4 | 1 | 1 |
| 都市郊外・ 地方市 | 7 | 32 | 19 | 2 | 15 |
| 山村・離島 | 0 | 5 | 8 | 5 | 5 |

表 I — 6 日常生活圏域の範囲(km)

| 地区特性 | 平均値 | 標準偏差 |
|--------------|------|------|
| 都市部 | 2.1 | 1.6 |
| 都市郊外・ 地方市 | 8.9 | 10.8 |
| 山村・離島 | 21.4 | 16.5 |
| 平均 | 10.8 | 9.6 |

表Ⅱ-1「身近な地域」と感じる範囲
(人)

| | |
|-------------|----|
| 隣近所 | 53 |
| マンションや団地の一角 | 25 |
| 町会 | 20 |
| 自治会 | 16 |
| 小学校区 | 20 |
| 中学校区 | 11 |
| 市町村全体 | 16 |
| 駅までの道のり | 21 |
| その他 | 12 |
| 無回答 | 2 |

表Ⅱ-2 地域に対する愛着

| | |
|------------|-----|
| | (人) |
| おおいにある | 37 |
| どちらかといえばある | 43 |
| どちらかといえば薄い | 19 |
| とても薄い | 5 |
| わからない | 4 |

表Ⅲ-1 日常生活範囲(買い物)

| | | |
|------|---------|-----|
| | (人) | |
| 回数 | ほぼ毎日 | 15 |
| | 週5-6回 | 10 |
| | 週2-4回 | 77 |
| | 週1回程度 | 78 |
| | 月数回程度 | 36 |
| | その他 | 13 |
| | 無回答 | 2 |
| 移動手段 | 徒歩(バギー) | 26 |
| | 徒歩(だっこ) | 10 |
| | 自転車 | 31 |
| | 自家用車 | 146 |
| | バス・電車 | 3 |
| | タクシー | 0 |
| | その他 | 0 |
| 無回答 | 15 | |
| 移動時間 | 5分以内 | 79 |
| | 10分以内 | 74 |
| | 15分以内 | 33 |
| | 30分以内 | 26 |
| | 1時間未満 | 8 |
| | 1時間以上 | 4 |
| | その他 | 1 |
| | 無回答 | 6 |

表Ⅲ-2 日常生活範囲(外食)

| | | |
|------|---------|----|
| | (人) | |
| 頻度 | ほぼ毎日 | 6 |
| | 週5-6回 | 1 |
| | 週2-4回 | 5 |
| | 週1回程度 | 14 |
| | 月数回程度 | 45 |
| | その他 | 15 |
| | 無回答 | 1 |
| 移動手段 | 徒歩(バギー) | 8 |
| | 徒歩(だっこ) | 3 |
| | 自転車 | 4 |
| | 自家用車 | 66 |
| | バス・電車 | 3 |
| | タクシー | 1 |
| | その他 | 0 |
| 無回答 | 1 | |
| 移動時間 | 5分以内 | 13 |
| | 10分以内 | 22 |
| | 15分以内 | 12 |
| | 30分以内 | 24 |
| | 1時間未満 | 9 |
| | 1時間以上 | 4 |
| その他 | 2 | |

表Ⅲ-3 日常的に子どもと一緒に出かける場所(地域特性と頻度)

人(%)

| | | ほぼ毎日 | 週5~6回 | 週2~4回 | 週1回 | 月1~2回 | その他 |
|--------|-----------------|---------|--------|----------|----------|----------|---------|
| 実家 | 都市部 (n=18) | 2(11.1) | 0 | 1(5.6) | 7(38.9) | 4(22.2) | 4(22.2) |
| | 都市郊外・地方市 (n=41) | 3(7.3) | 3(7.3) | 9(22.0) | 12(29.3) | 13(31.7) | 1(2.4) |
| | 山村・離島 (n=12) | 2(16.7) | 0 | 4(33.3) | 4(33.3) | 2(16.7) | 0 |
| 公園・遊び場 | 都市部 (n=30) | 6(20.0) | 1(3.3) | 8(26.7) | 6(20.0) | 8(26.7) | 1(3.3) |
| | 都市郊外・地方市 (n=51) | 8(15.7) | 0 | 12(23.5) | 14(27.5) | 14(27.5) | 3(5.8) |
| | 山村・離島 (n=12) | 2(16.7) | 0 | 3(25.0) | 3(25.0) | 3(25.0) | 1(8.3) |
| 病院 | 都市部 (n=0) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 都市郊外・地方市 (n=8) | 0 | 0 | 1(12.5) | 1(12.5) | 1(12.5) | 5(62.5) |
| | 山村・離島 (n=2) | 0 | 0 | 0 | 1(50.0) | 0 | 1(50.0) |

表Ⅳ 市町村合併による日常生活の変化の有無
(市町村合併自治体該当者)

1) 新市町村の窓口はわかりやすくなった。

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|----------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 2(18.2) | 7(63.6) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 2(20.0) | 2(20.0) | 2(20.0) | 4(40.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 1(4.4) | 9(39.1) | 9(39.1) | 4(17.4) | 23(100) |
| 全体 | 4(9.1) | 13(29.5) | 18(40.9) | 9(20.5) | 44(100) |

2) 利用できる施設やサービスは増えた

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|----------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 2(18.2) | 6(54.5) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 2(20.0) | 4(40.0) | 1(10.0) | 3(30.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 4(17.4) | 7(30.4) | 8(34.8) | 4(17.4) | 23(100) |
| 全体 | 7(15.9) | 13(29.5) | 15(34.1) | 9(20.5) | 44(100) |

3) 保健福祉サービスが提供される場所は近くなった。

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|----------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 2(18.2) | 1(9.1) | 6(54.5) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 1(10.0) | 4(40.0) | 3(30.0) | 2(20.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 0(0.0) | 11(47.8) | 10(43.5) | 2(8.7) | 23(100) |
| 全体 | 3(6.8) | 16(36.4) | 19(43.2) | 6(13.6) | 44(100) |

4) 保健福祉サービスを利用する頻度が増えた。

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 2(18.2) | 0(0.0) | 8(72.7) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 1(10.0) | 1(10.0) | 5(50.0) | 3(30.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 4(17.4) | 0(0.0) | 18(78.2) | 1(4.4) | 23(100) |
| 全体 | 7(15.9) | 1(2.3) | 31(70.5) | 5(11.3) | 44(100) |

5) 利用できる公共施設が増えた。

| | n(%) | | | | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 5(45.4) | 0(0.0) | 4(36.4) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 2(20.0) | 3(30.0) | 3(30.0) | 2(20.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 9(39.1) | 0(0.0) | 10(43.5) | 4(17.4) | 23(100) |
| 全体 | 16(36.4) | 3(6.8) | 17(38.6) | 8(18.2) | 44(100) |

6) 祭りや各種行事の開催が増えた。

| | n(%) | | | | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 3(27.3) | 1(9.1) | 6(54.5) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 4(40.0) | 2(20.0) | 2(20.0) | 2(20.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 5(21.7) | 2(8.7) | 13(56.5) | 3(13.1) | 23(100) |
| 全体 | 12(27.3) | 5(11.3) | 21(47.8) | 6(13.6) | 44(100) |

7) 役場・役所の距離は近くなった。

| | n(%) | | | | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 1(9.1) | 8(72.7) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 4(40.0) | 2(20.0) | 3(30.0) | 1(10.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 8(34.8) | 0(0.0) | 14(60.8) | 1(4.4) | 23(100) |
| 全体 | 13(29.6) | 3(6.8) | 25(56.8) | 3(6.8) | 44(100) |

8) 旧市町村の人同士の連帯感が深まった。

| | n(%) | | | | |
|-------|---------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 2(18.2) | 6(54.5) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 1(10.0) | 3(30.0) | 5(50.0) | 1(10.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 2(8.7) | 3(13.1) | 14(60.8) | 4(17.4) | 23(100) |
| 全体 | 4(9.1) | 8(18.2) | 25(56.8) | 7(15.9) | 44(100) |

9) 他の市町村で合併して同じ市町村民になった人とのつきあいは広がった。

| | n(%) | | | | |
|-------|---------|----------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 0(0.0) | 3(27.3) | 6(54.5) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 3(30.0) | 5(50.0) | 2(20.0) | 0(0.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 2(9.1) | 6(27.3) | 13(59.1) | 1(4.5) | 22(100) |
| 全体 | 5(11.6) | 14(32.6) | 21(48.8) | 3(7.0) | 43(100) |

10) 日常的にでかける範囲が広がった。

| | n(%) | | | | |
|-------|---------|---------|----------|--------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 1(9.1) | 8(72.7) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 1(10.0) | 2(20.0) | 7(70.0) | 0(0.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 3(13.0) | 1(4.4) | 18(78.2) | 1(4.4) | 23(100) |
| 全体 | 5(11.3) | 4(9.1) | 33(75.0) | 2(4.6) | 44(100) |

11) きめ細やかな行政のサービスが得られなくなった。

| | | | | | n(%) |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 3(27.2) | 5(45.5) | 2(18.2) | 11(100) |
| 地方市 | 3(30.0) | 5(50.0) | 0(0.0) | 2(20.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 9(39.1) | 1(4.4) | 9(39.1) | 4(17.4) | 23(100) |
| 全体 | 13(29.5) | 9(20.5) | 14(31.8) | 8(18.2) | 44(100) |

12) 住民の声が行政に届きにくくなった。

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|---------|----------|----------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 0(0.0) | 3(27.3) | 7(63.6) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 4(40.0) | 3(30.3) | 0(0.0) | 3(30.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 5(22.7) | 2(9.1) | 8(36.4) | 7(31.8) | 22(100) |
| 全体 | 9(20.9) | 8(18.6) | 15(34.9) | 11(25.6) | 43(100) |

13) 行政職員に相談をしにくくなった。

| | | | | | n(%) |
|-------|---------|---------|----------|---------|---------|
| | そう思う | そうは思わない | 変わらない | わからない | 計 |
| 都市郊外 | 1(9.1) | 3(27.3) | 6(54.5) | 1(9.1) | 11(100) |
| 地方市 | 2(20.0) | 3(30.0) | 2(20.0) | 3(30.0) | 10(100) |
| 山村・離島 | 3(13.1) | 1(4.4) | 14(60.8) | 5(21.7) | 23(100) |
| 全体 | 6(13.6) | 7(15.9) | 22(50.0) | 9(20.5) | 44(100) |

2006.

地区名：
市町村合併 あり ・ なし
ID

住民聞き取り調査 ～母子～

平成18年度市町村合併に伴う日常生活圏域と保健福祉サービスの提供のあり方等に関する調査票

乳幼児を子育て中のお母さんを対象に、子どもさんの外出や、人との交流などについて伺います。
調査に必要な時間はおよそ30～40分程度です。

問1 お母さん自身について教えてください。

問1-1 あなたの年齢を教えてください。

歳（平成18年1月1日現在）

問1-2 現在、仕事（給料を得る）をされていますか。

1. している（育児休業中） 2. していない

→1. しているとこたえた場合は、さらに以下1-2-1～1-2-3の問いを回答してください。

問1-2-1 雇用形態は何ですか。

1. パート・アルバイト・非常勤 2. 会社員 3. 自営業 4. 公務員 5. その他（ ）

問1-2-2 家から勤務先までにかかる片道通勤所要時間を教えてください。

1. 15分以内 2. 30分以内 3. 1時間以内 4. 1時間30分以内 5. 2時間以内 6. 2時間以上

問1-2-3 週あたりの出勤頻度について教えてください。

1. 週6回 2. 週5回 3. 週2-4回 4. 週1回 5. その他（ ）

問2 お子さんの性別、年齢を教えてください。

| | 性別 | 年齢 |
|-----|-----|----|
| 第1子 | 男・女 | 歳 |
| 第2子 | 男・女 | 歳 |
| 第3子 | 男・女 | 歳 |
| 第4子 | 男・女 | 歳 |
| 第5子 | 男・女 | 歳 |

問3 現在、どなたとお住まいですか。家族構成を教えてください。→あてはまる番号一つだけに○を記入。

1. ひとり親世帯 2. 核家族 3. 二世帯家族 4. その他（ ）

問4 この市町村に住まれてどの位ですか。→あてはまる番号一つだけに○を記入。

1. 1年未満 2. 1年～5年未満 3. 5年～10年未満 4. 10年～20年未満 5. 20年以上

問5 あなたにとって「身近な地域」と感じる範囲はどこまでですか。あてはまる番号全てに○を記入。

「身近な地域」とは、「このあたりまでが地元」と感じたり、「自宅からこのあたりまでなら顔見知りの人が多く住んでいる場所と感じている」のような一帯を指します。

1. 隣近所 2. マンションや団地の一画 3. 町会 4. 自治会 5. 小学校区
6. 中学校区 7. 市町村全域 8. 駅までの道のり
9. その他（ ）

問6 この地域に対する愛着はどの程度でしょうか。

以下の中から最も近いと思われるものの番号を1つだけに○を記入。

1. おおいにある 2. どちらかといえばある 3. どちらかといえば薄い 4. とても薄い 5. わからない

問7 問6でそのように思われる理由を教えてください。

問8以降は、0～3歳までのお子さんとの日常の外出等について回答してください。

問8 この1週間の間に子どもを連れてどこに行かれましたか？

① 何処で(場所) ② どの位の頻度で ③ 交通手段は ④ そこに行くまでにかかる時間は、について質問し、該当に○。複数ある場合には、その他頻度の高いものからを記載。

| | ①何処で？ | ②頻度 1. ほぼ毎日 2. 週5-6回 3. 週2-4日 4. 週1回程度 5. 月 回程度 6. その他 | ③交通手段 1. 徒歩(ハイギョー) 2. 徒歩(だっこ) 3. 自転車 4. 自家用車 5. バス・電車 6. タクシー 7. その他 | ④行くまでにかかる時間 1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 |
|---------------|--------------------|--|---|--|
| 子育てに関するサービスなど | 児童館または児童センター(公・民) | | | |
| | 子育て支援センター(公・民) | | | |
| | 育児サークル(公・民) | | | |
| | 子育てネットワーク(公・民) | | | |
| | ファミリーサポートセンター(公・民) | | | |
| | (公・民) | | | |
| | (公・民) | | | |

| | ①何処で？ | ②頻度 1. ほぼ毎日 2. 週5-6回 3. 週2-4日 4. 週1回程度 5. 月回程度 6. その他 | ③交通手段 1. 徒歩(ハイキング) 2. 徒歩(だっこ) 3. 自転車 4. 自家用車 5. バス・電車 6. タクシー 7. その他 | ④行くまでにかかる時間 1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 |
|---|-------|---|---|--|
| 買い物 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 外食 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| その他 (例：公園、実家 など、お子さんと 一緒に出かける 場所) | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

自治体などで構成員や会の目的などが決められているような組織（地縁組織）とのか

かわりについて伺います。

問 9 以下の地縁組織の中で、参加しているものはありますか。参加の有無について解答の上、参加されている方は、何の目的（活動内容）で参加されているのか、その活動内容について下記の選択肢の欄から選んで数字でお答えください（複数選択可）。

* なお、ここでいう「参加する」とは、かかわりの多少にかかわらず参加したことのある地縁組織をいう。

| | 組織名 | 参加の有無 | 参加の目的（活動内容） 複数選択可 ⑨その他の場合は具体的に記述 |
|----|-----------|-------|--|
| 1 | 隣組 | 有 ・ 無 | |
| 2 | 地区、班 | 有 ・ 無 | |
| 3 | 字会、町会、自治会 | 有 ・ 無 | |
| 4 | 商店街（組合） | 有 ・ 無 | |
| 5 | 子ども会、育成会 | 有 ・ 無 | |
| 6 | 婦人会、若妻会 | 有 ・ 無 | |
| 7 | P T A | 有 ・ 無 | |
| 8 | その他（ ） | 有 ・ 無 | |
| 9 | その他（ ） | 有 ・ 無 | |
| 10 | その他（ ） | 有 ・ 無 | |

参加の目的（活動内容）選択肢

- | | | |
|------------|-----------|----------|
| ①祭りなどのイベント | ②バザーや廃品回収 | ③映画会や講演会 |
| ④食事会 | ⑤旅行会 | ⑥児童館活動 |
| ⑦子育て相談 | ⑧親子の集い、交流 | ⑨その他 |

問 10 問9の組織のうち、現在参加している活動の中で、役員など中心的な役割を担っているものはありますか？ あれば問9の組織番号であてはまるものを全て回答してください。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 現在、役員や実行委員である（ | ） |
| 2. 現在、役員が企画してくれた行事に参加している（ | ） |
| 3. とくになし | |

保健所・保健（福祉）センター（地域の名称） に関連した質問です。

あなたが日頃利用する保健福祉サービスについて、伺います。

問 11 保健所・保健福祉センター（地域の名称で）で主催している乳幼児に関する教室や相談事業を利用することがありますか。あてはまる番号一つに○を記入。*ここでいう教室とは、行政主催の事業を指しますが、社協など、行政から委託して実施しているような事業も含まれます。

1. 利用する → 問 12 へ 2. 利用しない → 問 13 へ 3. わからない

問 12 問 11 で利用するとこたえた方。サービスは何ですか。あてはまるもの全てに○を記入。

1. 乳幼児健診 2. 育児相談（面接） 3. 育児相談（電話） 4. 家庭訪問
5. 子育てに関する各種教室 6. 予防接種 7. その他（ ）

問 13 問 11 で 2. 「利用しない」とこたえた方。利用しない理由であてはまる番号全てに○を記入。

1. 何が行われているのかわからない 2. 参加したいメニューがない
3. 行きたいが送迎の手段がない 4. 興味・関心がない
5. 時間的余裕がない（開催されている時間帯や曜日では参加できない）
6. その他（ ）

問 14 行政が行う保健福祉サービスの中で、あなたの近所で、「もっとこんな施設やサービスが身近にあったらいいな」と思うものはありますか。具体的にお答えください。

問 15 最近（ここ1年くらいの間）保健サービスや福祉サービスの中で**行政職員と関わり**を持った事がありますか。あてはまる番号一つに○を記入。（○は一つだけ）

1. ある → 問 15-1~2 へ 2. ない

問 15-1 問 15 で「ある」と答えた方。それは主に誰とですか。あてはまる番号一つに○を記入。

1. 保健所の事務職員 2. 保健所の保健師 3. 保健センターの事務職員
4. 保健センターの保健師 5. 保健センター以外の役所・役場の事務職員
6. 子育て支援センターの職員 7. 市町村長や知事 8. その他（ ）

問 15-2 それはどのような関わりでしたか。（自由記載）

最後に市町村合併について伺います。

市町村合併のあった地区のみ

問 17-1 市町村合併により生じたと思われる日常生活上の変化や問題がありますか。

あてはまる番号一つに○を記入。(○はそれぞれ一つだけ)

| | | | | |
|---|-------------|----------------|--------------|----------|
| 1) 新市町村の窓口はわかりやすくなった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 2) 利用できる施設やサービスが増えた | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 3) 保健福祉サービスが提供される場所は近くな った。例；乳幼児健診、育児相談、健康まつ り、子育て関連教室 | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 4) 保健福祉サービスを利用する頻度は増えた | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 5) 利用できる公共施設が増えた 例；図書館、 公民館、児童館、子育て支援センター、行政サー ビスコーナー、ホール | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 6) 祭りや各種行事の開催が増えた | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 7) 役場・役所の距離は遠くなった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 8) 旧市町村の人同士の連帯感が深まった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 9) 他の市町村で合併して同じ市町村民になった 人とのつきあいは広がった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 10) 日常的にでかける範囲は広がった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 11) きめ細やかな行政のサービスが得られなく なった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 12) 住民の声が行政に届きにくくなった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |
| 13) 行政職員へ相談をしにくくなった | 1. そう 思う | 2. そうは 思わない | 3. 変わら ない | 4. わからない |

問 17-2 上記以外で、市町村合併によってあなたの生活に変化や問題がありましたか。(自由記載)

以上で質問は終わりです。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

記入漏れがないか今一度ご確認ください。

生活範囲 _____ km

☆ 謝品をお渡しして、名簿にサインをもらってください。

障害者の日常生活圏域と保健福祉サービス

分担研究者 末永 カツ子 東北大学医学部保健学科教授
米澤洋美 国立保健医療科学院公衆衛生看護部研究員
平野かよ子 国立保健医療科学院公衆衛生看護部長

研究要旨

市町村合併により広域的な基礎自治体を創設する動きがある中で、移動や交流等に制限を受ける障害者に焦点を当て、①日頃の外出状況と日常生活圏域、②地域の人々との交流や社会参加、③保健福祉の職員との関わりの有無、④保健福祉サービスやまちづくりへの参画について当事者への聞き取り調査を行った。

聞き取り調査対象は 21 人の知的障害者、身体障害者、精神障害者に行った。障害者の日常生活状況は障害の種類により異なるが、自立度が低い者の平均的な行動距離は 2.9km と短かったが、移動手段や介助者が確保されれば決して行動範囲は制限されなかった。就労していたり通所サービスの利用者の平均的な行動距離は 11.5km であった。週 1 回以上の外出先は、どの障害者においても食料品などの買物先であるスーパーやコンビニであった。一般就労していない者の社会参加の内容は、行政福祉部門に限られ広がり欠ける傾向が伺われた。近隣地域との交流は、概して女性は保たれているが、男性は少ない傾向にあった。

障害者は移動手段やともに活動できる友人や知人が確保されれば、行動の範囲や活動内容が広がる。自ら主体的に活動出来る者は、身近で提供される一般的なサービスに加え、障害に応じた個別性の高い保健福祉サービスを求めている。サービス提供の拠点が、ほとんどの障害者が週 1 回は買物で出かける市街地や商店街にあると、買物のついでにサービスが利用でき、さらに交流を広げられる。また、女性に比べ交流が少なかった男性には近隣地域と交流を持つきっかけとなるような障害者によるピアサービス等が身近なところで提供されると活動の内容が広がることが期待できる等が示唆された。

研究協力者

佐々木早苗 宮城県美里町南郷総合支所健康福祉課係長
秋保 明 仙台市健康福祉局障害企画課主幹
阿部一彦 東北福祉大学教授

A. 研究目的

基礎自治体である市町村のあり方が見直され平成の大合併と呼ばれる大規模な合併が進

められている。

我が国の市町村数は、明治 20 年代の大合併、昭和 30 年代の大合併により、再編が進んできた。さらに平成の大合併により、平成 11 年 3 月末で 3232 市町村が、平成 18 年 4 月 1 日には 1820 に激減して来ている。

そこで、本研究では市町村合併により広域的な基礎自治体を創設する動きがある中で、移動や交流等に制限を受ける恐れのある障害者の日常生活圏域と保健福祉サービスとの関連に着目し、障害者の生活の質を向上させていくための保健福祉サービスや当事者の活動のあり方について考察した。

B 研究方法

研究方法は、以下の通りである。

1. 対象

対象は、A政令指定都市(市街地区部)と、合併した B 町に在住する 21 名である。

調査期間は平成 18 年 10 月 27 日～12 月 28 日であった。

2. 方法

研究協力者となった自治体の保健福祉職員と大学教員と接点のある障害者から、調査協力の得られた対象者に、調査員による聞き取り調査を行った。

3. 調査内容

調査内容は、以下の 1)～7)の 7 領域である。

1)健康状態および活動状況、2)家族構成および居住年数、3)外出状況、4)保健福祉サービスの利用状況、5)日常生活圏域、6)地域と人とのかわりや住民の自主活動との関わり、7)保健・福祉の職員との関わりと保健福祉サービスやまちづくりへの参画等である。

5. 分析方法

統計解析には統計パッケージ SPSS 15.0J for

Windows を使用した。

6. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査協力者には、質問紙の配布時に依頼文にて本研究の意義や目的、方法について説明するとともに、調査結果の公表により市町村および個人を特定されることはないことについて説明した上で、調査協力を依頼した。

C 研究結果

1. 回答者の属性

回答者は 21 人で、男性 14 人(66.7%)、女性 7 人(33.3%)であった(表1)。平均年齢は全体では、 47.7 ± 12.8 歳、男性 50.4 ± 13.6 歳、女性 42.1 ± 9.5 歳で女性のほうが約 8 歳若かった(表2)。

2. 健康状態および活動状況

種類別の障害者数を表3に示した。身体 8 人、精神が 8 人で知的障害者は 5 人であった。手帳は 18 名が保持し(表4)、自立度は自立が 13 人、Jランクが 6 人、Bランクが 1 人であった。屋外の外出の状況は介助不要が 14 人、部分的に要介助が 3 人、全介助が 1 人であった(表5)。

活動状況について複数回答で答えてもらったものを表6に示した。一般就労が 3 人あり、通所施設・小規模作業所・職親の利用者は 8 人、障害の種別の団体やネットワークの中で当事者活動をしている自助グループへの参加者は 12 人、その他は 5 人であった。

3. 家族構成および居住年数

家族構成は、単身者は 5 人(23.8%)で、そのほかの 16 人は家族や親族と同居していた。居住年数は 10 年未満は 1 人で、20 年未満 4 人、30 年未満 5 人、30 年以上と生まれて以来ずっとは 11 人あり、居住年数は比較的長いことが伺われた。

4. 外出状況